

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075300261		
法人名	有限会社憲信社		
事業所名	グループホームみずき		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字新多1418 (電話) 09496-2-8100		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 10 日	評価結果確定日	令和 4 年 2 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

近隣の小学校との手紙交換やビデオレターでのやり取り等コロナ禍でも地域の皆様と関わりあえる機会を大切にしています。また、看取り介護にも力を入れており、最後まで慣れ親しんだ環境で自分らしい生活が送れるよう、ご本人様、ご家族様、主治医、訪問看護ステーションと、当苑スタッフ一同協力して取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 23 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

J R筑豊本線の小竹駅から車で数分の静かな住宅街の小高い丘に位置しており、近隣住民とも行き来しやすい環境にあり、ホーム内は木造で採光も充分に入る明るい雰囲気のある2ユニットからなる事業所である。職員は理念に基づき入居者、家族の気持ちに寄り添いながら尊厳ある介護を提供し看取りまで行っている。職員は「職員の誓」としてより具体化した行動指針をもとに利用者本位の生活の支援に努めており、アットホームな印象がある事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様とご家族、地域の方々そして職員が支えあい町づくりに貢献する。という理念を掲げており、理念や職員の誓いを念頭に置き日々のサービスに活かしています。	「地域で支える町づくり」を大切にして、地域内の介護ニーズに対して事業所の役割を明確にした理念を掲げ、実践に向けて具現化した「職員の誓」があり、日々管理者・ホーム長が職員に周知を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。地域のボランティアの方にも来ていただいていたが、現在はコロナ禍の為来られていません。近隣の小学校との交流はお手紙や動画でのやり取りをさせて頂いております。	自治会への加入し、地域の活動に出向いたり、事業所主催で納涼祭を実施するなど地域と交流をしていた。コロナ禍においては回覧板や電話でのやり取りが主となっているが、事業所の新聞を役場や小学校に配布したり、小学生と手紙やDVDを通じてやり取りを続けるなど地域社会とのつながりを保つようにしている。近隣住民からお花やお手玉、千羽鶴などの頂き物もある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、入所時や来苑時にお話しております。又、近隣の小学校との交流の際にも認知症の方の支援の方法や関わり方等伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員や近隣住民代表方、役場の方、入居者さま、ご家族様にご参加いただいておりますが、現在コロナ禍にて開催で施設内職員及び入居者様のみでの開催となっております。委員の方には資料配布にて開催のご報告をさせて頂きお電話にて質問等受け付けています。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。会議の構成員は利用者、家族、役場福祉課職員、民生委員、近隣の住職や学校関係者である。コロナ禍では、文書にて事業所の様子を報告し、意見を頂くように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの新聞や利用状況を役場に届け、ホームの実態や考え方をして知って頂いています。その他課題点や不明点等あれば福祉課の方に相談させて頂いております。	日頃から役場福祉課担当者と連絡、相談などを行い、顔の見える関係となるよう努めている。「みずき新聞」を配布して、事業所の様子を報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針や事態が発生した場合のフローチャートを作成し、身体拘束廃止委員会や研修を通じて正しく理解できるよう取り組んでいます。	職員は、利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っており、近隣住民とは「災害時地域協力者連絡網」を作成している。また、町内のグループホームや行政関係とのネットワークも構築している。3ヶ月に1回委員会を開く等身体拘束をしないケアに努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について外部の研修（ネット研修）や施設内研修へ職員全員参加してもらっている。また、虐待防止の文章等も休憩室へ掲示し、普段からのご様子や入浴時等にも虐待など発生していないか観察を行っています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にご家族様と入居者様に権利擁護に関する制度の活用についても説明し、パンフレットも準備しています。	権利擁護や成年後見の制度については契約時や必要時に社会福祉協議会が作成している資料などをもとにわかりやすく説明するようにしている。また、年に1回内部研修を行うほか、外部研修へ参加する等制度の理解を深めるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後予想される事故やトラブル等については、事前に契約時に説明しています。また、契約前にご入居者様やご家族様に施設見学を行って頂き、不安や疑問についても尋ねるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様からは日々の生活の中で、ご家族様に関しては訪問時や電話等の連絡時に、苦情や要望等が気兼ねなく言える雰囲気づくりを心掛けている。また、定期的にご家族アンケートを送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置しています。	利用者の意見は、日常生活の中でホーム長や職員が聞き入れ、食事のメニューや外出先などに反映している。コロナ禍前は日帰り旅行を実施するなどしていた。家族の意見については日頃の連絡に加え、年1回のアンケートや意見箱などにて意見を伺うようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる環境を作っており、会議でも積極的に意見や提案をもらい運営に反映しています。	管理者・ホーム長は日常の業務や面談の中で、職員の意見を積極的に聞き、気づきやアイデアを取り入れるようにしている。利用者のレクリエーションや行事の提案や余暇活動については、職員の意見が多く反映されている。また、職員の働きやすい職場作りにも努め、ここ一年は離職者もない。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員の要望は聞くようにしており状況に応じて話し合いの場も設けています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集にあたっては、男女問わず幅広い年齢層で募集しており、働いている職員さん方は生き生きと勤務しています。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い、資格取得についても積極的に支援しています。	職員は、性別や年齢など関係なく採用されている。現在は、40歳代から70歳代までの職員がおり、他業種からセカンドキャリアとして勤務され、これまでの能力を発揮している方もいる。 事業所は職員のスキルアップのため研修等も積極的に参加できるように支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や会議等を等して人権教育や啓発活動に取り組んでいます。	人権については、年1回内部研修を実施している。また、管理者・ホーム長が日頃からミーティング等で職員に人権教育を行う等啓発している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後半年以内に新人研修を行っています。また、施設内での研修も行い介護技術の指導を行っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設にパンフレットを配る等し、その際に情報交換をさせて頂いています。コロナ禍の為交流会等は行えていませんが、電話等による面会制限の状況や施設内での対応等の情報交換も行っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から施設を見学して頂いたり、こちらからご面談に伺い、話し合いにてご本人様やご家族様の不安やご要望等お聞きし、徐々に施設に馴染んでいただける様な関係づくりに努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取り組みと同様。話しやすい環境を作り信頼関係が気づけるよう努力しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様及びご家族様の精神面、身体状況、環境状況等を把握し、今どんな支援が必要か具体的に話し合い決定しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がご自分で出来ることはしていただき、出来ないことをスタッフがサポートする。そして、入居者様の得意な事はスタッフに教えていただく等、ともに支えあえる関係作りをしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑の行事に御家族様を招待してはりましたが、現在コロナ禍の為行事等にはご参加いただいております。そのため、電話やお手紙でのご支援をしていただいております。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくり過ごしていただける様にしています。コロナ禍前は外出等の支援もしてはりました。	入居時、職員が利用者のこれまでの馴染みの関係について、生活歴などと併せてアセスメントするようにしている。入居後も、馴染みの関係が保たれるように手紙のやり取りなどの支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やレクリエーションにて、一緒に過ごす時間の調節役として、また入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様との関わりを大切にしており、手紙等のやり取りも行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握できるように努めています。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様の情報から把握できるように努めています。	日常のコミュニケーションや利用者の言動、表情から意向の把握に努め、意思疎通が困難な利用者には、関心がある話題を提供する等、利用者の意思が表出しやすくする工夫をしている。また、面会時に家族から聞き取った情報についても職員全員で共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様及び今まで担当されていたケアマネージャーより入居前に聞き取り調査を行い把握するように努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前までの生活リズムや過ごし方、出来る事やしたい事を上記同様に把握し、個人個人のペースで過ごしていただき、できない事をサポートできるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様からは日々の関わりの中で、思いや意見を積極的に聞き、担当者会議等で意見交換を行っています。	入居時は暫定介護計画を作成し、生活を観ながら利用後2週間で見直しを行っている。退院する場合は、必ずカンファレンスに参加し計画を見直している。計画作成担当者は、医師や関係者の意見、気づきを基にモニタリングシートを作成し、3か月ごとにミーティングで見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、行為、相手の反応、感じたことを細かに記録するようにしており、介護計画に生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの宿泊希望時、寝具や食事を提供している。また、外出の同行（現在はコロナ禍の為外出制限中）や入院時の面会の支援を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣の小学校、地域のボランティア、知人の方々など来苑していただきスタッフと一緒にサポートしていただいています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様ご希望の際は、かかりつけ医へ受診していただいている。希望の無い場合は同意の上で協力医療機関から訪問診療に入っていただき24時間の連絡体制が整っています。	本人や家族の希望があれば、他医療機関への受診を支援している。歯科受診は訪問歯科を利用し、義歯調整や口腔ケア等を行っている。医療に関する情報は、個人記録に記載され、ご家族の面会時に報告される。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護ステーションにより24時間温コール対応、及び週一回の訪問看護にて健康管理を行って頂いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、馴染みの顔を見せご入居者様に不安を与えないようにしています。（現在コロナ禍にて面会禁止のところが多い）その他、かかりつけ医や、入院先関係者、施設側職員が常に情報交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応、職員、家族、かかりつけ医、関係者との連絡を密にし情報共有し今後の変化に備え準備が出来るようにしています。	入居契約時に重度化対応・終末期ケア対応指針について説明している。終末期にはご家族も宿泊出来る様に協力体制は構築され、重度化に応じて家族や関係者全員で繰り返し話し合いを行い、チームで取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について研修を行っている。救命救急の講習会についてはコロナ禍の為今年は開催していない。緊急時は即座に対応できるように、緊急時対応マニュアル、連絡網を作成しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の避難経路や避難場所の見取図を掲示し、連絡網も作成しています。避難訓練は実施していますが今年はコロナ禍の為ユニット別で小規模での避難訓練しか行えていません。	事業所は、年2回（日中・夜間想定）災害・火災を想定した避難訓練を行っており、避難経路は事務所に掲示している。消防設備点検は年2回行っており、消防署へ報告されている。電気が使えなくなる事を想定して発電機も準備されている。地域の協力も得られるよう災害時対応協力者の連絡網も作成している。備蓄品は事業所内に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴・排泄等の対応について勉強会を行っており、日々の支援に生かしています。また、記録などの個人情報に関する秘密保持も徹底しております。	本人のプライバシーに関する会話については居室内で行うか、他利用者に聞こえないように小声で声をかけている。プライバシーに配慮するケアや個人情報保護に関しての方針は、研修計画を立てて実施されている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々の関わりの中でさりげなく好みを聞いたり、出来るだけ本人の思いに沿った生活ができる様支援しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその日の気分等を十分に観察したうえで、声掛けをしながらご本人様の希望に沿った生活ができる様支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度ご希望の方は、訪問美容サービスを受けていただいています。また行為の際は、出来るだけご本人様ご自分で好みの服を選んでいただいたり、要望を聞くなどして用意しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを事前に把握し、食べられない物は別の食材で対応しています。食事中はテーブルを囲んで会話しながら楽しく食事をしていただける様雰囲気づくりに努めています。	行事等では、事前に利用者に食事の嗜好調査を実施し、希望の食事を提供している。また、食事の盛り付けや片付けを利用者と一緒に行っている。利用者の体調に応じて代替食も可能であり、日々の食事が楽しみとなるよう努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の指示のもと一人ひとりの状態に合った食事を提供し、毎日の摂取量を記録し、その肩に応じた水分量、栄養バランスを確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っています。また、ご希望の入居者様には週に一度歯科訪問診療に来ていただいています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、見守りや声掛け誘導を行っています。	排泄は可能な限り自室トイレで排泄できるよう支援・見守りをしている。利用者の表情などを把握し、その都度に声をかけて排泄支援に努めている。失敗しても利用者が不安にならない言葉掛けや適切な処置を行っている。また、職員は個別の排泄記録で排泄パターンを把握し、日中はおむつは使用しないよう取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、ヨーグルトや食物繊維の多く入ったおやつを提供しています。また、腸の動きをよくするための腹部のマッサージ等も行っていきます。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に4回の入浴日を設け規定以外でも希望時に入浴ができる体制を整えています。入浴は入居者様の状態に合った支援を行うようにしており、入浴を楽しんでいただける様入浴剤等も用意しています。	週に2回を計画しているが、それ以外でも利用者の希望に応じて入浴することができる。体調や気分配慮し、足浴・清拭等に変更清潔が保たれている。入浴を拒否される利用者には、時間や日を変更して対応している。入浴時間を楽しんで頂ける様に入浴剤や季節によっては菖蒲湯など工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調をもとに安心して休める環境づくりに努めている。夜間眠れない時は温かい飲み物をお出ししたり、会話をし安心して眠れるように支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪し、医師からの処方された薬の管理やご入居者様や職員に説明をしていただいています。また、薬の説明書は個別にファイリングし職員が常に確認できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な能力を発揮できるよう、園芸や手芸、制作、レクリエーション等を職員と一緒に取り組み、入居者様のアイデアを活かせるように取り組んでいます。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、入居者様のの要望に合わせて散歩に出かけています。（現在コロナ禍の為近隣を少人数で散歩するなど市、行事等での外出は控えております）	本人の希望があれば、天候に応じて散歩は毎日出来る。事業所内には日差しが当たるテラスが設置されており、自由に利用することができる。買物を支援したり、病院への受診後に外食を計画する等、近隣の社会資源を活用して外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様にはご自分で管理していただいています。また、管理が難しい入居者様に対しては、買い物の日を設け希望されるものを購入できる機会を設けています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時にはいつでもご利用いただける様施設の電話を開放している。また、手紙や切手の準備、ポストへの投函までご支援させて頂いております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分であるホールには対面キッチンが設置されており、いつでも料理の過程が見られるようになっています。また、ホールからテラスは車いすでも自由に入出入りできるようになっています。また、ホール奥の畳の間では、ソファも設置しており、入居者皆さんの団欒の場となっています。	自然光が窓越しに入り明るい雰囲気がある。季節に応じて利用者と一緒に作成した作品を飾ったり、近隣の住民から頂いたお花を和室に活ける等、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥の畳の間や、日当たりの良い場所にソファ、イスを設置し、入居者さんの皆さんそれぞれ、ゆったりとお一人でくつろがれたり、仲の良い入居者様同士で過ごせるような空間を設けています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、ご本人様の使い慣れた物をお持ちいただき、馴染みの物を置くことで入居時の不安を取り除けるようにしています。	自宅で使用した馴染みやすい私物や家具が持ち込まれ、利用者が自宅と変わらない雰囲気のある居室で過ごすことができるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人のじょゆ協を把握し、配慮した支援を行っている。トイレを突き当りに設置し、ドアの色を変える等しているので、施設内の作りがご入居者様に分かりやすくなっています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様とご家族、地域の方々そして職員が支えあい町づくりに貢献する。という理念を掲げており、理念や職員の誓いを念頭に置き日々のサービスに活かしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。地域のボランティアの方にも来ていただいていたのですが、現在はコロナ禍の為に来られていません。近隣の小学校との交流はお手紙や動画でのやり取りをさせて頂いております。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様には、入所時や来苑時にお話しております。又、近隣の小学校との交流の際にも認知症の方の支援の方法や関わり方等伝えていきます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員や近隣住民代表方、役場の方、入居者さま、ご家族様にご参加いただいておりますが、現在コロナ禍にて開催で施設内職員及び入居者様のみで開催となっております。委員の方には資料配布にて開催のご報告をさせて頂きお電話にて質問等受け付けています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの新聞や利用状況を役場に届け、ホームの実態や考え方をして知って頂いています。その他課題点や不明点等あれば福祉課の方に相談させて頂いております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針や事態が発生した場合のフローチャートを作成し、身体拘束廃止委員会や研修を通じて正しく理解できるよう取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について外部の研修（ネット研修）や施設内研修へ職員全員参加してもらっている。また、虐待防止の文章等も休憩室へ掲示し、普段からのご様子や入浴時等にも虐待など発生していないか観察を行っています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時にご家族様と入居者様に権利擁護に関する制度の活用についても説明し、パンフレットも準備しています。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後予想される事故やトラブル等については、事前に契約時に説明しています。また、契約前にご入居者様やご家族様に施設見学を行って頂き、不安や疑問についても尋ねるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様からは日々の生活の中で、ご家族様に関しては訪問時や電話等の連絡時に、苦情や要望等が気兼ねなく言える雰囲気づくりを心掛けている。また、定期的にご家族アンケートを送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置しています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる環境を作っており、会議でも積極的に意見や提案をもらい運営に反映しています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ職員の要望は聞くようにしており状況に応じて話し合いの場も設けています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集にあたっては、男女問わず幅広い年齢層で募集しており、働いている職員さん方は生き生きと勤務しています。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い、資格取得についても積極的に支援しています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や会議等を等して人権教育や啓発活動に取り組んでいます。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後半年以内に新人研修を行っています。また、施設内での研修も行い介護技術の指導を行っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設にパンフレットを配る等し、その際に情報交換をさせて頂いています。コロナ禍の為交流会等は行えていませんが、電話等による面会制限の状況や施設内での対応等の情報交換も行っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から施設を見学して頂いたり、こちらからご面談に伺い、話し合いにてご本人様やご家族様の不安やご要望等お聞きし、徐々に施設に馴染んでいただける様な関係づくりに努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取り組みと同様。話しやすい環境を作り信頼関係が気づけるよう努力しています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様及びご家族様の精神面、身体状況、環境状況等を把握し、今どんな支援が必要か具体的に話し合い決定しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様がご自分で出来ることはしていただき、出来ないことをスタッフがサポートする。そして、入居者様の得意な事はスタッフに教えていただく等、ともに支えあえる関係作りをしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑の行事に御家族様を招待しておりましたが、現在コロナ禍の為行事等にはご参加いただいております。そのため、電話やお手紙でのご支援をしていただいております。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくり過ごしていただける様にしています。コロナ禍前は外出等の支援もしてまいりました。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やレクリエーションにて、一緒に過ごす時間の調節役として、また入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様との関わりを大切にしており、手紙等のやり取りも行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握できるように努めています。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様の情報から把握できるように努めています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様及び今まで担当されていたケアマネージャーより入居前に聞き取り調査を行い把握するように努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前までの生活リズムや過ごし方、出来る事やしたい事を上記同様に把握し、個人個人のペースで過ごしていただき、できない事をサポートできるように努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様からは日々の関わりの中で、思いや意見を積極的に聞きし、担当者会議等で意見交換を行っています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、行為、相手の反応、感じたことを細かに記録するようにしており、介護計画に生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの宿泊希望時、寝具や食事を提供している。また、外出の同行（現在はコロナ禍の為外出制限中）や入院時の面会の支援を行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や近隣の小学校、地域のボランティア、知人の方々など来苑していただきスタッフと一緒にサポートしていただいています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様ご希望の際は、かかりつけ医へ受診していただいている。希望の無い場合は同意の上で協力医療機関から訪問診療に入っていただき24時間の連絡体制が整っています。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護ステーションにより24時間温コール対応、及び週一回の訪問看護にて健康管理を行って頂いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、馴染みの顔を見せご入居様に不安を与えないようにしています。（現在コロナ禍にて面会禁止のところが多い）その他、かかりつけ医や、入院先関係者、施設側職員が常に情報交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応、職員、家族、かかりつけ医、関係者との連絡を密にし情報共有し今後の変化に備え準備が出来るようにしています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について研修を行っている。救命救急の講習会についてはコロナ禍の為今年は開催していない。緊急時は即座に対応できるよう、緊急時対応マニュアル、連絡網を作成しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の避難経路や避難場所の見取図を掲示し、連絡網も作成しています。避難訓練は実施していますが今年はコロナ禍の為ユニット別で小規模での避難訓練しか行えていません。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴・排泄等の対応について勉強会を行っており、日々の支援に生かしています。また、記録などの個人情報に関する秘密保持も徹底しております。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々の関わりの中でさりげなく好みを聞いたり、出来るだけ本人の思いに沿った生活ができる様支援しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やその日の気分等を十分に観察したうえで、声掛けをしながらご本人様の希望に沿った生活ができる様支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度ご希望の方は、訪問美容サービスを受けていただいています。また行為の際は、出来るだけご本人様ご自分で好みの服を選んでいただいたり、要望を聞くなどして用意しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを事前に把握し、食べられない物は別の食材で対応しています。食事中はテーブルを囲んで会話しながら楽しく食事をしていただける様雰囲気づくりに努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社の指示のもと一人ひとりの状態に合った食事を提供し、毎日の摂取量を記録し、その肩に応じた水分量、栄養バランスを確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っています。また、ご希望の入居者様には週に一度歯科訪問診療に来ていただいています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、見守りや声掛け誘導を行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、ヨーグルトや食物繊維の多く入ったおやつを提供をしています。また、腸の動きをよくするため		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に4回の入浴日を設け規定以外でも希望時に入浴ができる様体制を整えています。入浴は入居者様の状態に合った支援を行うようにしており、入浴を楽しんでいただける様入浴剤等も用意しています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調をもとに安心して休める環境づくりに努めている。夜間眠れない時は温かい飲み物をお出ししたり、会話をし安心して眠れるように支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪し、医師からの処方された薬の管理やご入居者様や職員に説明をしていただいています。また、薬の説明書は個別にファイリングし職員が常に確認できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な能力を発揮できるよう、園芸や手芸、制作、レクリエーション等を職員と一緒に取り組み、入居者様のアイデアを活かせるように取り組んでいます。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、入居者様のの要望に合わせて散歩に出かけています。（現在コロナ禍の為近隣を少人数で散歩するなど市、行事等での外出は控えております）		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様にはご自分で管理していただいています。また、管理が難しい入居者様に対しては、買い物の日を設け希望されるものを購入できる機会を設けています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時にはいつでもご利用いただける様施設の電話を開放している。また、手紙や切手の準備、ポストへの投函までご支援させて頂いております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分であるホールには対面キッチンが設置されており、いつでも料理の過程が見られるようになっていました。また、ホールからテラスは車いすでも自由に出入りできるようになっています。また、ホール奥の畳の間では、ソファも設置しており、入居者皆さんの団欒の場となっています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥の畳の間や、日当たりの良い場所にソファ、イスを設置し、入居者さんの皆さんそれぞれ、ゆったりとお一人でくつろがれたり、仲の良い入居者様同士で過ごせるような空間を設けています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、ご本人様の使い慣れた物をお持ちいただき、馴染みの物を置くことで入居時の不安を取り除けるようにしています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人のじょゆ協を把握し、配慮した支援を行っている。トイレを突き当りに設置し、ドアの色を変える等しているので、施設内の作りがご入居者様に分かりやすくなっています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない